

# 日常会話場面におけるスマホの持ち替え

## Switching smartphones from one hand to another in everyday conversation

千田 真緒<sup>†</sup>, 伝 康晴<sup>†</sup>  
Mao Chida, Yasuharu Den

<sup>†</sup> 千葉大学  
Chiba University  
g2183119c@gmail.com

### 概要

本稿では、日常会話場面において、スマホを持ち替えることがどのような相互行為の機能を果たしているのかを考察した。スマホの持ち替えは頻繁に行なわれるものではないが、持ち替え直後の行為としてジェスチャーや画面の共有がよく行なわれていることが分かった。スマホの持ち替えによって、関与や相互行為空間を調整していることが観察された。

キーワード：スマートフォン, 観察, 日常会話

### 1. はじめに

本稿では、日常会話場面において、スマートフォン(スマホ)を持ち替える際、どのような相互行為が行なわれ、会話をつくりあげているのかを分析対象とする。

スマホやタブレットなどの人工物とともに行なわれる会話を対象とした研究の多くは、これまで、会話中のスマホ利用を問題としているものが中心であった。例えば、進行している会話とは無関係なスマホやタブレットの使用が維持されることで、会話に再参加することが難しくなったり、会話を途切れさせてしまったりすることが指摘されている(Porcheron et al., 2016)。

しかし、会話中にスマホや携帯電話を手に取り、利用することは、必ずしも会話に支障を与えるものではない。Brown et al. (2015)は、スマホでの検索が会話のなかでどのように進行するかを分析した。複数人の会話で1人が検索する場面は、忘れたことを他の参加者に質問することで始まる。もの忘れを利用することで参加者の関与を管理し(Goodwin, 1987)、検索活動を共同で行なうように構築する。検索結果を読み上げたり、それに対する評価によって、1人の検索活動でも会話から離脱することなく、検索活動を終える。スマホが会話の一部として機能していることが示されている。

また、Mantere (2022)は、スマホの持ち方(片手か両手か)や画面の向き、置く場所によってスマホの位置を13種類に分類し、参加者は、スマホの持ち方によって、会話への関与を示すことを明らかにした。スマホを片手で持つときは、スマホ使用が副次関与(Goffman, 1963)となり、会話で発話権を得る。片手から両手にスマホを持

ち替えることで、スマホが主要関与(Goffman, 1963)となり、他の参加者に発話権を委ねる。

以上の研究から、スマホ使用が会話活動に様々な影響を与えることが観察されている。そのなかで、スマホを右手から左手、あるいは左手から右手へと持ち替えることに着目した研究は少ない。スマホをいじりながらも続けられる会話場面では、スマホの持ち方だけではなく、その持ち替えるタイミングや発話との関係を分析することも、日常会話とともにあるスマホに着目した研究の発展に繋がられるだろう。

これらの背景のもと、本稿では、「スマホを持ち替えること」が、どのように日常会話の場で機能しているのかを検討する。

### 2. 方法

#### 2.1 分析データ

分析データには、『日本語日常会話コーパス』(Corpus of Everyday Japanese Conversation, 以下 CEJC)(小磯他, 2023)を用いた。CEJCは、多様な場面における577会話、200時間を収録した大規模なコーパスである。

形式(雑談)と活動(休息, 食事, 食事・休息, 食事・付き合い, 付き合い)を限定した304会話中、スマホやタブレットが出現する134会話を分析対象とした。スマホに触れていなくとも、スマホが机の上に置いてある場合も含めた。撮影場所や人数、話者間の関係性などは限定していない。

#### 2.2 分析の手続き

CEJCのデータを参照するとともに、映像分析ソフトELANを用い、「視線」、「スマホに関連する行為」、「スマホに関連しない行為」に注釈をつけた(発話に関しては、CEJCのELANファイルをそのまま用いた)。「スマホに関連する行為」は、主にスマホを操作している状態のことを指す。スマホを机に置いたり、保持していたりする行為も含む。「スマホに関連しない行為」とは、飲食や身体そのものの動きを指す。トランスクリプトの記

号については、西阪(2008), Mondada (2018)を参照した。  
「名前-ス」行は、参加者の「スマホに関連する行為」を記している。スマホに主に着目するため、「スマホに関連しない行為」は議論に関連する箇所のみ記す。

### 3. 結果と考察

#### 3.1 持ち替えデータの概要

分析対象とした 134 会話中、本稿で扱う「スマホの持ち替え」が発生した事例は 15 会話 47 事例であった。持ち替えがみられた会話は分析対象中、約 11.2%であり、スマホの持ち替えはさほど頻繁に行なわれないことがわかる。スマホいじりはどちらか一方の片手のみの操作、または両手で完結している。スマホを持ったまま会話している場合でも、ほとんど持ち替えないことが明らかとなった。

また、持ち替えた直後に何が為されているのかを観察し、分類した(表 1)。その結果、指さしや発話の説明を想起させるようなジェスチャーが最も多く、全 47 例中、18 例みられた。次に、スマホの画面を他の参加者と共有する(見せる)際に、持ち替えが発生しているのが 13 例であった。その他に分類されたものとして、スマホの置き場所との関係や、受け渡しされたスマホの所有者との位置関係による持ち替えが観察された。

以下の質的分析では、持ち替え直後の行為として多かったジェスチャーと画面共有を取り上げ、スマホの持ち替えとともに為される行為と発話の関係をみていく。

表 1 持ち替え直後の行為の分類

行為	事例数
ジェスチャー	18
画面共有	13
どこかを搔く	5
スマホの操作	4
飲む	3
その他	4
計	47

#### 3.2 質的分析

##### 3.2.1 ジェスチャーと持ち替え

事例 1 (T006\_009, 12:16.34~12:32.412)では、指さしなどのジェスチャーとともに、スマホの持ち替えが行なわれていた。事例 1(図 1)の直前、根本と尾形は、以

前焼肉屋で出てきたナポリタンの話をしていた。食事場面から、根本の利き手は右手であることがわかっている。また、データ全体で、根本は(少なくともこのデータ内では)ジェスチャーのほとんどを右手を使って行なうことが観察されている。

図 1 事例 1 のトランスクリプト

<p>01 尾形 あれ あれちょっと 02 尾形 歴代ナポリタ*ンでも#ちよっと上位に入るよね 根_ス *右手でいじるのをやめ、持つ fig (0.31) #fig1</p> <p>04 根本 あっ 05 (0.16) 06 根本 *もっとうまいと#こ教えようか 根_ス *右手から左手に持ち替える-&gt;L.29 根_他 \$指さしをする\$ fig (0.24) #fig2</p> <p>07 何= 08 =下町にあんのよ 09 根本 (0.31) 10 11 根本 なんかにニュースでやってた 12 (0.84) 13 尾形 下町?= 14 根本 =うらうん 15 (0.08) 16 尾形 うん 17 根本 どっかにあんだよ 18 (0.42) 19 根本 \$よ[んチャンで#やってたもん\$ 根_他 \$数字の4を示す-----\$ fig (0.84) #fig3</p> <p>20 [hhh 21 俺\$掃り車でうい::んって#[見てたもん\$ 根_他 \$車のハンドルを再現する-----\$ fig (0.45) #fig4</p> <p>22 尾形 [うん 23 24 根本 エブリーで @報道番組「news every.」 25 (0.13) 26 尾形 うん 27 [特集[で 28 [た- 下町広[いよね?hh 29 [hhh*うそ# 根_ス -&gt;*左手から右手に持ち替える fig (約17秒後スマホいじり再開) #fig.5</p>	
--	--

01-02 行目で尾形は、過去に根本と焼肉屋で食べたナポリタンが、歴代上位に入ると発話する。その際、根本は右手(利き手)で行なっていたスマホいじりをやめ、04 行目で「あっ」と発話し、何かを想起したことを示す。想起された内容として、06 行目で「もっとうまいとこ教えようか」と、ナポリタンの美味しいお店を教えることを提案する。このとき、根本は右手に持っていたスマホを左手(非利き手)に持ち替え、右手の人差し指で聞き手の尾形を指さしながら発話する。安井(2017)は、話し手が意見などを述べた後、次の話し手が直前の話し手に対して指さしをすることで、これから話すことが、直前の発話から直接引き起こされたものであることを参加者に理解可能な資源として伝えているという。実際、06 行目で根本は、直前の尾形の発話を引き継ぐ形で、自身の経験をもとに「もっとうまいナポリタンの店」を尾形に教えようとしている。ここでの根本の指さしは、まさにこのような資源として用いられている。重要な点は、この(利き手による)指さしは、スマホを右手から左手に持ち替えたことによって可能になっているとい

う点である。

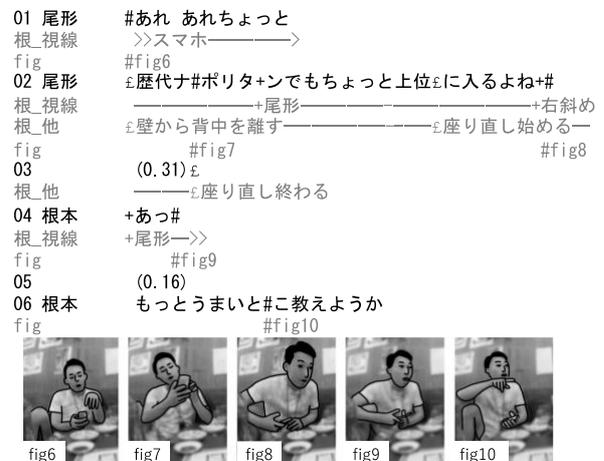
08 行目で尾形が根本の提案に興味を示すと、09 行目から根本が「もっとうまいナポリタンの店」について説明を始める。09 行目で「下町にあんのよ」と場所を示し、11 行目で「なんかニュースでやってた」と情報の出どころを説明する。しかし、13 行目で尾形は根本の発話の一部である「下町」を繰り返すことで修復を開始し、11 行目までの根本の説明が尾形にとって不十分であることを示す。それに対し、17 行目で根本は「どっかにあんだよ」と再び説明する。さらに 19 行目で、テレビの 4 番チャンネルでやっていたのを見たことを発話する。この発話は、11 行目の「ニュース」をより具体的に言い換えたものである。この際、根本は右手で「4」を示し、チャンネルの数字を尾形に明確に示している。根本の情報源の説明は 21 行目からも続けられる。21 行目でも、根本は「車でうい::んって見てたもん」と発話する際、車のハンドルを示すジェスチャーを両手で行なう。24 行目では具体的な番組名が、27 行目ではその番組の特集で出ていたことが発話される。28 行目で尾形が「下町広いよね?hh」と根本による場所の説明の不十分さをもう一度示すと、29 行目で根本が笑いながら「うそ」と驚きを示し、左手で保持していたスマホを右手へと持ち替える。その後、スマホに視線を向けることなく、「下町がどこか」という話題が展開され、17 秒後再びスマホをいじり始める。

ここで、01-06 行目の根本の上半身の動きと視線(図 2)をより詳細に検討する。02 行目で尾形が「歴代ナポリタンでもちょっと上位に入るよね」と、根本に同意を求めるとき、根本は上半身を壁から離し、前傾し、座り直し始める。座り直した後、04 行目で「あっ」と発話しながら尾形に視線を向け、06 行目で指さしを行なう。指さしに先立つ根本の上半身の動きと視線から、根本はスマホいじりを中断し、会話へ従事(engagement) (Goodwin, 1981)することを予示していると言えるだろう。あるいは、話し手性(speakership)を示しているとも言えるだろう。ただし、スマホを机に置くのではなく、左手に持ち替えて持ち続けたままであることから、会話に完全に従事しているわけではなく、スマホの操作がいずれ再開されることが予測される。詳細は省略するが、根本は自ら話題を進行させた後(04,06 行目)、スマホに視線を向ける場面がみられた(17 行目)。尾形が根本の説明が不十分であることを何度か示しても(13, 28 行目)、スマホで調べようとすることもなく、根本の関心はもっぱらスマホでの私的活動にも向けられてい

たと考えられる。

事例 1 では、指さしをする際に最初のスマホの持ち替えが行なわれ、その後も一連の説明のあいだ中、片方の手でスマホを保持しつつ、もう片方ではチャンネルの数字を示したり(「よんチャン」)、車のハンドルを表していたり(「車でうい::んって」)するジェスチャーを行っていた。どのジェスチャーも、スマホを持ち替えずとも行なえるものであるが、スマホを持ち替えた理由として、根本の利き手が右手であることが挙げられる。前述の通り、根本はデータ内でのジェスチャーを利き手で行なう傾向にあり、スマホの操作も利き手で行なっていた。このことから、一連の説明に先立って、利き手である右手から非利き手である左手にスマホを持ち替えることは、右手をジェスチャーに利用可能にし、説明という活動への主要関与を予示するものと理解できるだろう。しかし、スマホを置いたりしまったりするのではなく、片手に保持したままであることから、スマホの私的利用への関与も同時に示唆していると考えられる。

図 2 根本の上半身の動きと視線



### 3.2.2 画面共有と持ち替え

事例 2(C001\_001, 19:03.170~19:15.640)では、スマホ画面の共有とともに、スマホの持ち替えが行なわれていた(図 3)。事例 2 の前まで、夏樹が欲しかった「からす天狗」のパスケースについて話されていた。

01 行目で美香は、パスケースの評価を述べる。このとき、左手でスマホを持ち、右手で操作している。05 行目で操作していた右手に持ち替え、美香の左隣に座っている玲子にスマホの画面を見せ、「なんかかっこよくない?」と同意を求める。玲子に近い側の左手からわざ

わざ右手に持ち替えて、スマホの画面を共有するのは、一見不自然にみえる。しかし、実際には、玲子から遠い側の右手を差し出すことで、横並びの状態からやや向き合う形になり、美香の操作領域(transactional segment) (Kendon, 1990)を拡張し、玲子との道具的 F 陣形(instrumental F-formation) (McNeill, 2006)を構成している。その後、玲子と美沙から同意が得られると、10 行目で美香は玲子にスマホを見せたまま、まだ反応のない夏樹を見ながら「ね:↑」と同意を求める。夏樹も12 行目でこれに同意を示し、16 行目でパスクエの具体的な柄の説明を始める。美香は12 行目で夏樹の同意を得た後、玲子に見せていたスマホを自分の方に戻し始め、16 行目で再び左手に持ち替え、右手で操作し始める。

事例 2 において、美香はスマホを持ち替えてから画面共有することで、隣にいる玲子とのを拡張していた。このように、スマホの持ち替えは身体配置と結びつくことで、相互行為空間の調整にも用いられることがわかる。

図 3 事例 2 のトランスクリプト

01 美香	めっちゃかっこいいんだよ		
美香_ス	>>左手で持ち、右手で操作する->L.05		
02	(0.57)		
03 玲子	[うん うん うん[うん		
04 美香	[ほらほら		
05 美香	±なんかかっこよくない?#		
美香_ス	±右手に持ち替え、玲子に画面を見せる->L.12		
fig	#fig11		
06	(1.20)		
07 美沙	[うんと°		
08 玲子	[ほんとだ		
09	(0.28)		
10 美香	ね: ↑#		
fig	#fig12		
11 玲子	う[::ん		
12 夏樹	[ね±::		
美香_ス	->±右手で画面を自分の方に寄せ始める		
13	(0.77)		
14 夏樹	そう:		
15 美香	[そ:う!		
16 夏樹	[そゆう写実的なやつが±:#		
美香_ス	±左手に持ち替える		
fig	#fig13		

#### 4. おわりに

以上の分析から、スマホの持ち替えが関与の示しや(事例 1)、相互行為空間の調節(事例 2)になっていることが明らかとなった。

スマホの持ち替えと利き手との関係について、特に事例 1 では当該参加者において、ほぼ全てのジェスチャーが利き手でなされていた。ジェスチャーと利き手の関連性について、本研究では 1 例にとどまっているため、今後さらに検討する必要がある。

#### 謝辞

本研究は、JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム J24HJ00001 の支援を受けたものである。

#### 文献

- Brown, B., McGregor, M., & McMillan, D. (2015). Searchable objects: Search in everyday conversation. In D. Colsey & A. Forte (Eds.), *Proceedings of the 18th ACM Conference on Computer Supported Cooperative Work & Social Computing*. 508–517.
- Goodwin, C. (1981). *Conversational organization: Interaction between speakers and hearers*. Academic Press.
- Goodwin, C. (1987). Forgetfulness as an interactive resource. *Social Psychology Quarterly*, 50 (2), 115-130.
- Goffman, E. (1963). *Behavior in public places: Notes on the social organization of gatherings*. The Free Press.
- 小磯 花絵・天谷 晴香・居關 友里子・白田 泰如・柏野 和佳子・川端 良子・田中 弥生・伝 康晴・西川 賢哉・渡邊 友香 (2023). 『日本語日常会話コーパス』設計と構築 国立国語研究所論集, 24, 153-168.
- Kendon, A. (1990). *Conducting interaction: Patterns of behavior in focused encounters (Studies in International Sociolinguistics, 7)*. Cambridge University Press.
- McNeill, D. (2006). Gesture, gaze, and ground. In Renals, S & Bengio, S. (Eds.), *Machine learning for multimodal interaction (Lecture Notes in Computer Science, 3869)*, 1–14. Springer.
- Mantere, E. (2022). Smartphone moves: How changes in embodied configuration with one's smartphone adjust conversational engagement. *Social Sciences*, 11 (5), 216.
- Mondada, L. (2018). Multiple temporalities of language and body in Interaction: Challenges for transcribing multimodality. *Research on Language and Social Interaction*, 51 (1), 85-106.
- 西阪 仰・串田 秀也・熊谷 智子 (2008). 特集「相互行為における言語使用：会話データを用いた研究」について 社会言語科学, 10 (2), 13–15.
- Porcheron, M., Fischer, J.E., & Sharples, S. (2016). Using mobile phones in pub talk. In *Proceedings of the 19th ACM Conference on Computer-Supported Cooperative Work & Social Computing (CSCW '16)*, 1649–1661.
- 安井 永子 (2017). 直前の話し手を指さすこと：直前の発話との関連を示す資源としての指さし 社会言語科学, 20(1), 131-145.